

言葉の解釈の違いはどこを境目に顕著に現れるのか

国語班: 北坂綾香、富田実和、安井梨弓、山本彩花

Abstract

The purpose of this study is to reveal the point where makes a clear difference in interpretation in Japanese. We assume the male and female brain as the point. The research shows that what makes the difference is not the male and female brain but properties of words. Also, we found that differences in interpretation are more likely to occur in questions related to schedules, while questions related to emotions or personality tend to be interpreted more consistently. This study suggests that differences in interpretation are caused by the nature of the words themselves. This study concludes that words which seem to require no negotiation in interpretation are more likely to cause differences in understanding.

要約

本研究の目的は、日本語の解釈の明確な違いがどこにあるのかを明らかにすることである。私たちは、その違いが男性脳と女性脳にあると仮定した。調査によって、男女脳によって言葉の解釈の違いは見られなかったが、予定に関する質問では解釈の違いが生じやすく、感情や性格に関する質問では解釈の違いが生じにくいことが分かった。これらの結果から、言葉の解釈の違いは言葉が持つ性質によるものだと考察した。従って本研究では、解釈をすり合わせる必要が無い言葉ほど解釈の相違が生まれやすいということが結論付けられた。

1.はじめに

日本語は日常会話の表現が豊富だ。同じ状況を示すにしても、話し手の置かれた状況や立場などの文脈によって解釈の仕方も異なる。しかしそうした言葉のニュアンスは極めて曖昧で、それは互いの言葉に対する価値観や尺度が同じであるという前提で成り立つものだ。

上記のことから、環境(性別や年齢など)が違えば言葉に対する価値観や尺度にも違いが生まれるだろう。その中でも私達は特に「男女脳」に着目し、解釈の仕方や言葉選びとの相関があるだろうと考えた。

2.研究手法

高津生130名を対象にアンケートを実施する。

解釈の差が生じる原因を性別、文系理系、家族構成、男女脳の項目に仮定し、言葉の解釈の差を調べる質問を7問行う。また調査に用いる言葉を感情、性格、予定の3つに分類する。

①どんな解釈をするか

悪口(常識がない) / 褒め言葉(天才型, 面白い)



(アンケート項目①)

②幸せとは

不幸せなことがない / 現状に満足しているとき

③優しい

思いやりを持って話してくれる / はっきりと伝えるべきことを伝えてくれる

④買い物に行く

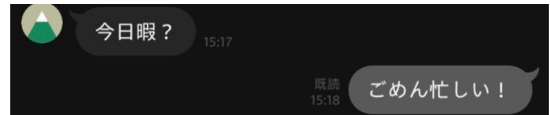
買いたいもの探しに行く / 特定の何かを購入しに行く

⑤息抜きをする

遊びに行く、出かける / 家で好きに時間を過ごす

⑥どういう意味？

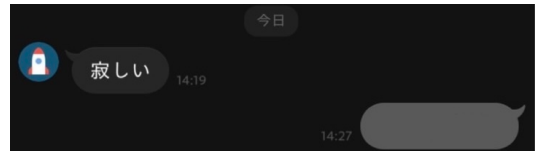
いま忙しい / 今は忙しくないがこれからやることが多い



(アンケート項目⑥)

⑦なんて返事する？

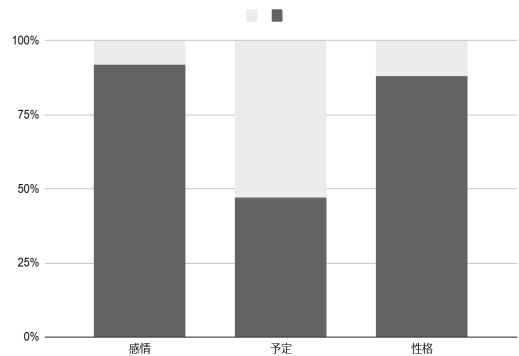
なんかあったん? / ひとりなん?



(アンケート項目⑦)

3.結果

右のグラフはアンケートの結果、質問ごとの2つの選択肢の偏り具合を分野別に示している。このグラフを見ると、男女脳・性別・文理・家族構成の観点に関わらず予定に関する言葉を含む質問は偏りは少なく、感情や性格を表す言葉を含む質問は偏りが大きいことがわかる。このことから、予定に関する言葉は人によって解釈の違いが生じやすく、感情、性格に関する言葉は解釈の違いが生じにくい。また、仮説として立てていた男女脳・性別・文理・家族構成などの観点は言葉の解釈の違いに影響しないとわかった。



□…前者の答え ■…後者の答え
(偏りを示すアンケート結果)

4.考察

私達は「暇?」や「買い物〜?」などの”予定”に代表される言葉は時間の使い方や目的の感覚の認識において偏りが生じる傾向があると考察した。対人関係において予定の言葉の解釈に偏りが生じるのは感情や性格を表す言葉に比べて違和感覚えることが少ないため、相手の感覚に歩み寄る必要性が低いことが原因であると考えた。以上の結果から言葉の解釈の違いが生じるのは、対象者が分類される属性ではなく言葉がもつ性質によるものであると考えた。関する言葉がどの観点においても解釈の違いが生じやすいのは、感情や性格を表す言葉に比べ対人関係において相手と認識をすり合わせる必要性が低いためであると考察した。

5.結論

人々は対人関係において失礼に当たる発言を避けるため、日常会話の中で人を形容する言葉の解釈を無意識にすり合わせようとする傾向があるため、解釈の違いが生じにくい。一方、相手との認識をすり合わせる必要性が低い言葉は解釈の違いが生じやすく、相手が分類される属性との相違によって解釈の違いが生じるわけではないと結論付けた。

6.参考文献ならびに参考Webページ

安藤則夫(2010)「日本的心理特徴からうまれた日本語の構造—日本的心性が日本語に与える影響について」植草学園大学研究紀要/植草学園大学発達教育学部/第2巻2ページ

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センターHPより(2019.12.6)『男性脳・女性脳をつくる新たなメカニズムの解明』